

賛美と朗読の礼拝 ～詩編～

詩編34篇

どのようなときも、わたしは主をたたえ
わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。
わたしの魂は主を賛美する。
貧しい人よ、それを聞いて喜び祝え。
わたしと共に主をたたえよ。ひとつになって御名をあげよう。
わたしは主に求め／主は答えてくださった。
脅かすものから常に救い出してくださった。
主を仰ぎ見る人は光と輝き／辱めに顔を伏せることはない。
この貧しい人が呼び求める声を主は聞き
苦難から常に救ってくださった。
主の使いはその周りに陣を敷き
主を畏れる人を守り助けてくださった。
味わい、見よ、主の恵み深さを。
いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。
主の聖なる人々よ、主を恐れ敬え。
主を畏れる人には何も欠けることがない。
若獅子は獲物がなくて飢えても
主に求める人には良いものの欠けることがない。

わたしは常に主をほめまつる

詩編46篇

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。
わたしたちは決して恐れない／地が姿を変え
山々が揺らいで海の中に移るとも
海の水が騒ぎ、沸き返り／その高ぶるさまに山々が震えるとも。
大河とその流れは、神の都に喜びを与える
いと高き神のいます聖所に。
神はその中にいまし、都は揺らぐことがない。
夜明けとともに、神は助けをお与えになる。
すべての民は騒ぎ、国々は揺らぐ。
神が御声を出されると、地は溶け去る。
万軍の主はわたしたちと共にいます。
ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。
主の成し遂げられることを仰ぎ見よう。主はこの地を圧倒される。
地の果てまで、戦いを断ち
弓を砕き槍を折り、盾を焼き払われる。
「力を捨てよ、知れ／わたしは神。
国々にあがめられ、この地であがめられる。」
万軍の主はわたしたちと共にいます。
ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。

この神は

<会衆> 詩編120篇

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。
わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから。
どうか、主があなたを助けて／足がよろめかないようにし
まどろむことなく見守ってくださいように。
見よ、イスラエルを見守る方は／まどろむことなく、眠ることもない。
主はあなたを見守る方／あなたをおおう陰、あなたの右にいます方。
昼、太陽はあなたを撃(う)つことがなく
夜、月もあなたを撃(う)つことがない。
主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り
あなたの魂を見守ってくださいように。
あなたの出で立つのも帰るのも／主が見守ってくださいように。
今も、そしてとこしえに。

私は高い山を見上げる 聖歌 507

詩編42篇

かれた谷に鹿が水を求めるように
神よ、わたしの魂はあなたを求める。
神に、命の神に、わたしの魂は渴く。
いつ御前に出て／神の御顔を仰ぐことができるのか。
昼も夜も、わたしの糧は涙ばかり。人は絶え間なく言う

「お前の神はどこにいる」と。
わたしは魂を注ぎ出し、思い起こす
喜び歌い感謝をささげる声の中を
祭りに集う人の群れと共に進み
神の家に入り、ひれ伏したことを。
なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／なぜ呻くのか。神を待ち望め。
わたしはなお、告白しよう／「御顔こそ、わたしの救い」と。

鹿のように

詩編1篇

いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず
罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず
主の教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人。
その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び
葉もしおれることがない。
その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。
神に逆らう者はそうではない。彼は風に吹き飛ばされるもみ殻。
神に逆らう者は裁きに堪えず
罪ある者は神に集いに堪えない。
神に従う人の道を主は知っていてくださる。
神に逆らう者の道は滅びに至る。

主の教えをよるこびとし

<会衆> 詩編22篇

わたしの神よ、わたしの神よ
なぜわたしをお見捨てになるのか。
なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず
呻きも言葉も聞いてくださらないのか。
わたしの神よ／昼は、呼び求めても答えてくださらない。
夜も、黙ることをお許しにならない。
だがあなたは、聖所にいまし／イスラエルの賛美を受ける方。
わたしたちの先祖はあなたに依(よ)り頼み
依り頼んで、救われて来た。
助けを求めてあなたに叫び、救い出され
あなたに依り頼んで、裏切られたことはない。

詩編16篇

わたしは主をたたえます。
主はわたしの思いを励ましわたしの心を夜ごと論してくださいます。
わたしは絶えず主に相対しています。
主は右にいまし／わたしは揺らぐことがありません。
わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。
あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく
あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず
命の道を教えてくださいます。
わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い
右の御手から永遠の喜びをいただきます。

イエスの勝利をたたえよう

詩編126篇

主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いて
わたしたちは夢を見ている人ようになった。
そのときには、わたしたちの口に笑いが
舌に喜びの歌が満ちるであろう。
そのときには、国々も言うであろう
「主はこの人々に、大きな業を成し遂げられた」と。
主よ、わたしたちのために／大きな業を成し遂げてください。
わたしたちは喜び祝うでしょう。
主よ、ネゲブに川の流れを導くかのように
わたしたちの捕われ人を連れ帰ってください。
涙と共に種を蒔く人は／喜びの歌と共に刈り入れる。
種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は／束ねた穂を背負い
喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

涙と共に種を蒔く者は

詩編49篇

神に対して、人は兄弟をも贖いえない。
神に身代金を払うことはできない。
魂を贖う値は高く／とこしえに、払い終えることはない。
人は永遠に生きようか。墓穴を見ずにすむであろうか。
人が見ることは／知恵ある者も死に
無知な者、愚かな者と共に滅び
財宝を他人に遺さねばならないということ。
自分の名を付けた地所を持っていても
その土の底だけが彼らのとこしえの家／代々に、彼らが住まう所。
人間は榮華のうちにとどまることはできない。屠られる獣に等しい。
これが自分の力に頼る者の道
自分の口の言葉に満足する者の行く末。
陰府に置かれた羊の群れ／死が彼らを飼う。
朝になれば正しい人がその上を踏んで行き
誇り高かったその姿を陰府がむしばむ。
しかし、神はわたしの魂を贖い／陰府の手から取り上げてくださる。

人の歩みは

<会衆> 詩編23篇

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。
主はわたしを青草(あおくさ)の原に休ませ／いこいの水のほとりに伴い
魂(たましい)を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく
わたしを正しい道に導かれる。
死の陰(かげ)の谷を行くときも／わたしは災(わざわい)を恐れぬ。
あなたがわたしと共にいてくださる。
あなたの鞭(むち)、あなたの杖(つえ) それがわたしを力づける。
わたしを苦しめる者を前にしても
あなたはわたしに食卓をととのえてくださる。
わたしの頭に香油(こうゆ)を注ぎ
わたしの杯(さかずき)をあふれさせてくださる。
命のある限り／恵みと慈(いっく)しみはいつもわたしを追う。
主の家にわたしは帰る／生涯、そこにとどまるであろう。

わが魂の羊飼い

詩編90篇

主よ、あなたは代々にわたしたちの宿るところ。
山々が生まれる前から／大地が、人の世が、生み出される前から
世々とこしえに、あなたは神。
あなたは人を塵に返し／「人の子よ、帰れ」と仰せになります。
千年といえども御目には
昨日が今日へと移る夜の一時にすぎません。
あなたは眠りの中に人を漂わせ
朝が来れば、人は草のように移ろいます。
人生の年月は七十年程のものです。
健やかな人が八十年を数えても
得るところは労苦と災いにすぎません。
瞬間に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。
御怒りの力を誰が知りえましょうか。あなたを畏れ敬うにつれて
あなたの憤りをも知ることでしょう。
生涯の日を正しく数えるように教えてください。
知恵ある心を得ることができまうように。

Still

詩編51篇

神よ、わたしを憐れんでください／御慈しみをもって。
深い御憐れみをもって／背きの罪をぬぐってください。
わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。
あなたに背いたことをわたしは知っています。
わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。
あなたに、あなたのみわたしは罪を犯し
御目に悪事と見られることをしました。
あなたの言われることは正しく
あなたの裁きに誤りはありません。

神よ、わたしの内に清い心を創造し
新しく確かな霊を授けてください。
御前からわたしを退けず

あなたの聖なる霊を取り上げないでください。
御救いの喜びを再びわたしに味わわせ
自由の霊によって支えてください。
わたしはあなたの道を教えます／あなたに背いている者に
罪人が御もとに立ち帰るように。

驚くばかりの恵みなりき

<会衆> 詩編62篇

わたしの魂(たましい)よ、沈黙(ちんもく)して、ただ神に向かえ。
神にのみ、わたしは希望をおいている。
神はわたしの岩、わたしの救い、砦(とりで)の塔。
わたしは動揺しない。
わたしの救いと栄えは神にかかっている。
力と頼み、避けどころとする岩は神のもとにある。
民よ、どのような時にも神に信頼し／御前(みまえ)に心を注ぎ出せ。
神はわたしたちの避けどころ。
人の子らは空しいもの。人の子らは欺(あざむ)くもの。
共に秤(はかり)にかけても、息よりも軽い。
暴力に依存(いぞん)するな。搾取(さくしゆ)を空しく誇るな。
力が力を生むことに心を奪われるな。
ひとつのことを神は語り／ふたつのことをわたしは聞いた
力は神のものであり
慈しみは、わたしの主よ、あなたのものである、と
ひとりひとりに、その業に従って
あなたは人間に報(むくい)をお与えになる、と。

静まれ我がたましい

詩編133篇

見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。
かくわしい油が頭に注がれ、ひげに滴り
衣の襟に垂れるアロンのひげに滴り
ヘルモンにおく露のように／シオンの山々に滴り落ちる。
シオンで、主は布告された／祝福と、とこしえの命を。

ヒネ・マ・トブ・ウマ・ナイム

<会衆> 詩編150篇

ハレルヤ。
聖所で神を賛美せよ。
大空の砦で神を賛美せよ。
力強い御業のゆえに神を賛美せよ。
大きな御力のゆえに神を賛美せよ。
角笛を吹いて神を賛美せよ。
琴と豎琴を奏でて神を賛美せよ。
太鼓に合わせて踊りながら神を賛美せよ。
弦をかき鳴らし笛を吹いて神を賛美せよ。
シンバルを鳴らし神を賛美せよ。
シンバルを響かせて神を賛美せよ。
息あるものはこぞって主を賛美せよ。
ハレルヤ。

あなただけが我らの神